

無事故と工期内完成を誓い合う カントリーエレベーター起工式



▲ 参加者全員で工事の無事完了を祈る

ＪＡは平成２４年度から稼働する、カントリーエレベーターの新築工事起工式を８月１０日、能代市工業団地の建設予定地で開催しました。

起工式にはＪＡ関係者や、施工業者である株式会社サタケの関係者のほかに、秋田県知事の佐竹敬久氏や能代市長の齊藤滋宣氏など、行政関係者を含む約６０人が参加して、無事故と工事の円滑な遂行による工期内完成を誓い合いました。ＪＡではカントリーエレベーターの稼働によって、組合員の農作業の軽減や、余剰労働力による米以外の戦略作物の拡大などを図り、①産地の強化、②組合員所得の向上、③安定的な管内農業の実現を目指してまいります。

出荷最盛期に向けて 夏ねぎ目揃会を開催



▲ 出荷規格について説明を行う担当者

ＪＡあきた白神ねぎ部会（山谷初男部会長）は８月２日、夏ねぎ目揃会を能代市工業団地交流会館で開催。間近に迫った収穫・出荷の最盛期に向けて、出荷規格や集荷体制について説明を行いました。

目揃会には多数の生産者のほか、ＪＡ担当者や能代市の担当者、また市場関係者が参加。担当者は「今後は軟腐病やネギアザミウマなどの、病害虫の多発時期となるため、より一層の防除に心掛けてほしい」と呼びかけました。また市場関係者は「過去最高の販売高を記録した昨年同様に、市場へ高品質ねぎの提供をお願いしたい」と話すなど、生産者は『あきた白神ねぎ』への需要の高まりを感じ取っていました。

能代の農商工を集約 ～のしろ産業フェア２０１１～



▲ 能代が誇る木工品づくりを体験する子どもたち

「のしろ産業フェア２０１１～ふるさと能代じまん市～」が８月２７日と２８日の両日、同市総合体育館をメイン会場に開催されました。

会場では、『木都』能代を象徴する、木材製品展や物産展が開催されたほか、会場の外では屋台村やフリーマーケットなど多くの催しが行われました。２８日には能代市民俗芸能連合会の合同発表会も行われ、能代の産業と芸能を見ようと、２

日間で多くの方が会場を訪れました。

また今回の産業フェアは街なかイベントとして、豚なんこつまつりと１００円商店街を、それぞれ能代駅前と中和通りで開催。さらに同時開催の「白神の里」ＪＡまつりの会場までを、無料シャトルバス運行で結び、訪れた人々に能代の食と農を知ってもらう取り組みも行われました。当日は街に人が溢れ、能代の一大イベントとなりました。



▲ 能代駅前では新名物「豚なんこつ」まつりが開催